

## 別記様式(第4条関係)

## 会議録

会議の名称	加東市民病院経営健全化基本計画評価委員会
開催日時	令和6年3月13日(水) 14時から15時10分まで
開催場所	加東市民病院 会議室
議長の氏名 委員長代理	西山 敬吾
出席及び欠席委員の氏名	
出席委員	神崎 仁、藤井 和美
欠席委員	浅野 良一、壺井 弘次、田中 正紀、高尾 かをり
説明のため出席した者の職氏名	
市長	岩根 正
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
病院事業管理者	金岡 保、事務局長 大西 祥隆、事務長 堀田 敬文、
看護部長	長田 瑞穂、ケアホームかとう事務長 柳 博之、経営企画課長 大末 美佳、
総務課長	前中 公和、医事課長 大原 由子、医事課係長 三村 彰彦
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	
1 開会	
2 開会挨拶(市長)	
3 協議事項 加東市民病院経営健全化基本計画～経営強化プラン～(案)について	
①病院事業管理者プレゼンテーション:病院事業の運営方針	
②事務局:計画案の前回委員会から修正箇所の説明	
③質疑応答	
委員	病状に応じて近隣の病院や加東市民病院を受診することが必要と感じた。加東市民病院はこのまま継続していってくれることを望む。そのことで市民が安心して暮らすことができる。
委員	医療機能に係る目標値の根拠で、救急患者受入数の今年度見込みが1530人であるが2027年度目標が2000人となっている。達成見込みはいかがか。
事務局	小児科医師の減が救急患者の受入数に影響している。感染症が疑われる発熱患者を受入れ診療することでウォークインの患者が増えてきており、医師の確保に努めるとともに、頑張っていきたいという思いも込めて、目標値を2000人とした。
委員	納得しました。
委員長代理	急性期医療と初期医療は別であり、病床機能分化・病院分化が進んでいる。住民に愛されるのは初期医療であり、急性期治療の時間との競争の場面では医療者側が感じる満足感は少ない。ここの病院では時間をかけて患者と接することができるので両者とも満足感を得やすい。手術などは他院に紹介し、術後の診療を受け持つ方向にしてはどうか。
	診療報酬は改定のたびに上がってはいかない、どんどん下がっていく傾向にある。

それにどう適応していくかが課題となる。公立病院では実施しにくい部分であるが、通院バスがあると収益に即応する、バスを巡回させ外来患者から増やす方法もあると思う。地域で生き残るためには、市民に感謝される医療機関になることが大切だと思う。

コロナの流行期に外来診療は増えたのか。

病院事業管理者 実施したPCR検査分の収益は上がった。コロナ感染拡大期は、①保健所から依頼されて、コロナ検査をどこも受けてくれない患者のPCR検査を休日、時間外を含め主に実施し、収益につながっていると事務から報告を受けている。②病院とクリニックの関係では、まずクリニックを勧めて、時間外などクリニックでは対応が困難でPCRが出来なかった方に対して検査をした。③第5類となった今は、コロナとインフルを同時に検査できるキットやコロナの治療薬が流通しているので同時検査と診療をおこない、収益に繋げている。

委員長代理 PCR検査で収益は上がるが利益はどうだろうか。

事務局 PCR検査については人件費を含めプラスになっている。

委員 北播磨医療センターは、看護師がベッドサイドで患者と接する時間も短く、又、短期間で退院となる。加東市民病院は看護師がベッドサイドで世話をしてくれることにより、患者は満足している。

委員長代理 それが高度急性期、急性期、回復期との役割分担。高度急性期～急性期を担当するほど、重症時のかかわりのため患者側の印象記憶は希薄であり、高度急性期病床ほど、患者から感謝されづらい環境にある職場であり、そのあたりが看護師の離職率にも関係してくると思う。

病院事業管理者 入院患者を増やすために主には、地域の医療機関からの紹介依頼をうけて増やしていく。しかし、外傷などその日の担当医の診療科によっては断ることもある。

救急患者に関して、常勤医師12人うち内科系医師は5人であり、175人医師のいる医療センターと比較されても厳しいところがある。医師の働き方改革もあり、当院は、西脇病院と連携しながら、医療圏域内での役割に応じて対応していく。

今年度小児科は非常勤の医師により火・水曜日の週2日間の診療になっている。月・木・金曜日を診療してくれる医師を確保したので、4月からは非常勤医師により月～金の平日診療ができる体制となる。

委員長代理 他に全体を通しての意見はないか。それでは、この内容で加東市民病院の経営強化プランの策定とする。

4 閉会挨拶（病院事業管理者）

5 閉会

令和6年4月18日

委員長代理

西山敬吾